



からしだね

2014年
5月号 (494号)

キリストの受難
カトリック池田教会

共同宣教司牧：畠 基幸神父・松本 一宏神父

協力司祭：デニス・マックゴワン神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL : 072-751-2400 FAX : 072-753-4624

URL(ホームページ) :

http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/



巻頭言	2	池田・日生合同黙想会	3
総務委員会から	3	マザーテレサの指のお祈り	3
幸田和生司教池田訪問	4	表紙写真説明	4
初聖体・イエスさまへの手紙	4	中高生たこ焼きパーティ	4
英会話クラス日本語訳	5	ガラスケースの言葉	5
ドイツ生活随想	6	新しい本が届きました	7
宝塚黙想の家から	8	生きるということを考える	8
からしだね俳壇	9	染野神父様と集合写真	10

表紙写真：リトアニア ビリニュスの大聖堂 提供：閑歳

巻頭言

アレルヤ 主に賛美

畠 基幸 神父

「信じた人々の群れは、心も思いも一つにしていた」(使徒言行録4・32)

申し遅れましたが、主の復活の喜びを申し上げます。本年度は、ベネディクト教皇の講話集を黙想しながら聖週間の典礼を準備しましたが、教皇様の復活徹夜祭の三つの象徴の説明、「光」「水」「アレルヤ」の中の「アレルヤ」に心が動きました。毎年アレルヤを声高く歌っていましたが、そのためでしょうか、主の復活によって深い闇から解放された生命に新しい命の光が輝き、その命の満ち溢れる喜びを特徴づける「アレルヤ」の言葉の響きを感じることができました。典礼では、栄光の賛歌に鈴を鳴らし続けて少々うるさく感じたかもしれませんが……。そのアレルヤ(主に賛美)の残響の中で、二人の大人の新受洗者を迎えることができたことは大変に喜ばしいことでした。主は生きておられる。2千年前のイエスは復活されて、今ここに、生きておられる。

主が生きておられることは、皆様もいろいろな出会いや体験の中で繰り返し経験しておられることと思います。今年の聖なる三日間の典礼の最初の日にはこんな出会いがありました。午後、一人の老人が訪ねてこられました。自分の名前が教会名簿に載っていないか確かめるためでした。64年前に洗礼を受け、就職で大阪に来た時から、教会から疎遠になり忘れた頃、池田教会から二人の婦人が自分のアパートに訪ねてこられて驚いたとのこと、それでご自分の信者籍が移籍されて保存されているのではないかと思われたとのことです。仕事も終え、ボランティア活動をしている現在、心の余裕もあるので信仰を復活させたいとのことでした。この方にゆるしの秘跡を授け、最寄りの教会を紹介して送り出しました。

この方の場合、教会から離れるつもりはなかったのに、就職で都会に出て、家族や故郷の仲間から離れると、置かれた環境の中で順応するうちに、日曜日仕事仲間との付き合いが優先し、そして気が付けば50年近くも教会から遠ざかってしまった。神やキリストを否定するつもりや教会に恨みはないけれども、日曜日に教会に行くことをやめてしまうと、祈りや信仰は生活の中から消えてしまった、と。最後の晩餐に聖体が制定されたことを記念するこの日に、この方が教会を訪ねてこられたことは、主がこの方に示されたいつくしみの業でした。失われた羊のために命を与える羊飼いのイメージは、この日私にも現実のものになりました。ところが、同じ晩餐の夜、ユダのように主を裏切り、わずかなお金で主の敵に売り渡す信者もいます。主の復活の喜びの記念日、主日のミサに与らないことは、共同体と共に生きておられる主イエスに出会い、主の霊と一つになる恵みが失われることなのに……。小さな頃から教会よりは勉強やクラブ活動など世の中を優先する習慣は、信者のアイデンティティを失わせ、日曜日は、唯一自分の判断の自由に任せられている休日で、自分のための自由な特別の日に、なぜ教会へ行かねばならないのかと信仰の義務に不満を募らせる者が多数いることも事実なのです。

4月27日のいつくしみの主日にヨハネ二十三世と共に列聖されたヨハネ・パウロ二世教皇は、「主の日一日曜日の重要性」という使徒的書簡を1998年の聖霊降臨の日に発表しておられます。日曜日の意義が余すところなく解説されている書簡で、これ以上簡潔に「主の日一日曜日の重要性」を解き明かした教会文書はないと思います。皆様に、この文章と一緒に読む機会があればと思います。第二章のキリストの日、復活した主の日、聖霊のたまもの日という見出しは、日曜日の意義を聖霊降臨までを含めたダイナミックな過越の秘義を提示するもので、教皇様の文言では、日曜日は、ある意味で「週ごとの過越しを祝う復活祭」であり、「週ごとの聖霊降臨祭」であるとまで言うておられます。皆様は意識しておられますか？ 主日のミサで信仰宣言を唱えるのは何故か？ 復活徹夜祭の典礼では、新しい人とされた救いを思い起こし、洗礼の約束を更新しますが、毎日曜日信仰宣言を唱えるとき、神のことばに聞き従う神の民として、洗礼の約束を更新しているのです。つまり年に一回の聖なる三日間の典礼は、一年中主の復活の記念日である日曜日にも毎回行わ

れているのです。だから日曜日は新しい命の源泉です。復活節が、聖霊降臨祭に終わるように、毎日曜日、皆様の上にキリストの霊が降り、キリストの体として一つにされ、そして聖霊に満たされて派遣されていくのです。聖霊は愛の霊、キリスト者の心に刻まれた掟で、キリストの心に結ばれて信者に奉仕の賜物、あかしの力を与えます。これは、皆様が存在レベルで体験している毎日曜日の出来事なのです。

聖ヨハネ・パウロ二世教皇は、結びにこのように確信しておられます。

「次のことは、きわめて大切です。すべての信者は、日曜日に行われる感謝の祭儀の集いに繰り返し参加しない限り、自分の信仰を生きることはできず、また、キリスト者の共同体の生活において十二分に分かち合うことができないということを確認しなければならないのです。・・・この強い信仰の確信に支えられ、日曜日を遵守するのに必要な人類の諸価値の遺産に対する自覚をもって、今日のキリスト者は文化の誘惑に立ち向かわなければなりません。・・・確かに、キリスト者は、週ごとの休日を楽しく味わうということでは他の人と違いはありません。けれども、同時にキリスト者は、日曜日の独自性と新しさを強く自覚しています。この日は、キリスト者が、自らの救いと全人類の救いを祝うよう招かれている日なのです。日曜日は喜びの日であり、休息の日です。それはまさに、この日が「主の日」、つまり復活した主の日であるからです。」(同上書簡P96~97)

福音宣教をする教会へと成長するために、「主の日」の恵みを味わい分かち合う教会共同体の意識をもっと養う方向で充実した典礼と奉仕を目指したいと考えております。



池田・日生中央教会 合同黙想会のお知らせ

下記の通り、黙想会を開催いたしますので、ご参加ください。

1. 日時：6月6日(金) 10:00~15:00
2. 場所：売布 黙想の家
3. 指導：来住英俊神父様

(研修委員会)



総務委員会からのお知らせ

今年度の大掃除は、9月21日(日)です。例年は8月実施でしたが暑さ対策の為、9月の涼しい時期と致します。皆さん宜しくお願い致します。



片柳弘史神父から教えて頂いた
マザーテレサの指のお祈り



東京教区 幸田和生司教 池田訪問 (4月6日)

※ ホームページに、当日のお説教を掲載中です。



【表紙写真説明】

リトアニア ビリニュスの大聖堂

バルト三国の旧ソビエト連邦の国には珍しくリトアニアはカトリックです。歴史的には昔ポーランド国王が統治していたようで、その名残があるようです。日本ではあまりメジャーな国では無いだけに、珍しい写真ではないかと思えます。
(閑歳)



初聖体おめでとう! (4月20日)

初聖体の子どもたちの イエスさまへの手紙

イエスさまとおすばれている気持だった。御血はあまくておいしかった。おかあさんがきのう洗礼をうけて、たくさんの人におめでとうといわれてよかった。

ヨゼフ 四倉

今すごくうれしい。なぜかというイエスさまのからだを食べられるし、イエスさまと友だちになれた気がして、すごくワクワクする。

ヨゼフ 関



中高生の聖書研究会のたこ焼きパーティ (4月13日)



The Most Enjoyable English Conversation Class with a Puppy の日本語訳

北村

4月号の「からしだね」に投稿した英文の内容について、数人の方から「和訳がないと理解出来ない」、「新聞は誰でも読めるものでないといけない」とのお叱りの言葉を頂戴しました。確かに、一部の方々にとって、英語は敵国語であったため学校では一切教えられなかったのです。戦後生まれの私は、考えが及ばず申し訳ございませんでした。

私は日本語の原稿を作っていないので、今回は現役でピカピカの高校生に和訳を託しました。ありがたいことに池田教会の高校生の一人P. N. ルチアさんがそれを引き受けてくれました。数人の方からお叱りを受けたことは、私にとって大きな驚きであり喜びでした。

感謝あるのみ！ルチアさんにも感謝！

「犬と一緒に楽しむ、とっておきの英会話」

もしよろしければ犬と一緒に英会話クラスに参加なさいませんか。池田教会の中では、今までにない、とっておきの楽しいクラスです。犬好きの私にとっては、ついに夢が実現したという感じです。私は今年の2月からデニス神父様の英会話に参加しています。毎週月曜日の午後4時～6時までです。

トピックは時事問題、自然、料理、旅行、ガーデニング、スポーツ、動物、宗教などなど色々で楽しんでいます。前回のトピックの一つは「犬」についてでした。

クラスのメンバーは皆犬好きで、何よりもデニス神父様が大変な犬好きでいらっしゃいます。驚いたことに、神父様はつい4年前までの長い間、貧しい国の人々を支援する基金を作る目的でダックスフンドの仔犬を増やし売ってこられたのです。

神父様の最後の犬が、4年前に18才で死ぬまでに、何と120匹もの仔犬を育てられたそうです。私は神父様のそんなお姿を見て育ち心の底から尊敬の念をいただいています。

私は、大学2年生の時に初めて池田教会を訪れました。

その時、短足で胴長の変な体型の仔犬たちに出会いました。ダックスフンドは当時の日本では未だ珍しい犬種でした。神父様は「ダックス」はドイツ語で「たぬき」、「フンド」は「犬」と言う意味で、本来たぬきやあなぐまを狩る狩猟犬だという事を教えてくださいました。

初めて会った神父様の仔犬たちはとても人懐こく一斉に私に飛びついてきました。「ああ、何て可愛いんだろう！」それは本当に可愛い仔犬たちでした。しかし、残念な事に私には高価で一匹も買えませんでした。それに私はその後もずっと多忙で十分に世話をすることも出来なかったでしょう。でも退職した今こそ心おきなく愛犬の世話を楽しむことが出来るのです。

デニス神父様も昨年、長年愛されたマリア幼稚園の園長職を辞されました。今こそ一緒に退職後の人生を楽しむ事が出来るのです！

興味のある方は英会話のクラスに参加なさいませんか。聴いているだけでも十分に楽しいはずですよ。

英会話クラスの終了後、私の愛犬（Rex…王様という意味）は、デニス神父様の後について行き司祭館に入って行きました。そして、私が「帰るよ～！」といくら呼んでも出て来ようともしませんでした。満足気に玄関にじっと座っているのです。その光景は私にとって初めての体験でした。Rexはきっと神父様が好きになったのでしょう。

犬には「読心術」があり、人の心をよく分かっているのです。

親バカですが、Rexは私のよきパートナーでありよき友なのです。

(P. N. ルチア訳)

5月のガラスケースの言葉

天は神の栄光を語り、
 大空はそのみ手のわざを告げる（詩篇19：2）



ドイツ生活随想

中尾 佳

昨年11月初めに帰国し、京都に住まいつつ花屋敷つつじヶ丘の実家の改装工事などで行き来をしておりました。先日、本当に久しぶりに池田教会を訪問し大変活気に満ちた発展のご様子を拝見し、また多くの懐かしい方々にも再会出来て非常に嬉しく、幸福感に満たされました。これからもっと頻繁にお伺い致したく思っています。

ところで私は、ドイツに合計23年間暮らしておりましたが、内銀行時代の14年間（フライブルク、デュッセルドルフ、フランクフルト）及び産業機械メーカー勤務（マールブルク近郊）の4年余りの思い出は、企業の話が中心になってしまい、余り面白い内容にならないと思いますので、本寄稿では主として学校及び家庭教育関係にテーマを絞り、（文部科学省派遣国際交流ディレクターとして）フランクフルト日本人学校に勤務した折のささやかな体験を中心に紹介させていただきたいと思います。

同校の小学1年生から中学3年生までの交流相手校はフランクフルト近郊も含めた公立小学校、ギムナジウム（注：日本の小学5年生から高校3年生位までに相当）、それに養護学校、ユダヤ人学校、フランス人学校など計14-15校に及びました。

低学年の場合は主としてゲーム、スポーツ、工作、音楽などで交流活動を行い、高学年になりますとドイツでは珍しいソフトボールの定期交流試合（中学2-3年）、年2回各3泊4日の相互ホームステイ（中学1年）、野外博物館への合同遠足（小5、小6、中1）など盛り沢山に行いました。

こうした交流活動を通じて垣間見たドイツの学校教育の大きな特徴はまず徹底した体験重視にあります。例えば蝙蝠の生態を学習する小学3年生では十分な事前学習を踏まえ、初夏の夕べ（8時頃）学校に集合し実際に森の中に入り音波計測器を持ち込んで蝙蝠の出す音を調べていました。

一方、日本人小学校の4年生の場合、ドイツ人の主食であるジャガイモの栽培学習の年間テーマで、種芋の植え付け（4月）から、害虫駆除（6月）、収穫（9月）そして畑で野焼きをしながらホカホカの新鮮なジャガイモを食べたりしました。またパン屋さんでいろいろな形のパン作り挑戦をしました。小学2年生は、近所の肉屋のマイスターに学校まで来てもらい、お母さん方も一緒にソーセージ作りです。

またドイツの交流校を見ると、ピアノ、合奏、コーラス、ダンス、絵画、作文、演劇コンクール、数学や自然科学のオリンピックのような全国大会などに熱心に応募させています。自主的に目標を決めて、積極的に挑戦させ、自信に裏付けられた生きる力が身につくよう熱心に指導しているよう、うかがえました。

交流活動において、日本人生徒たちには牛乳パックを材料にした紙漉き作業体験（小3）、たこ焼き作り（小4）、書道体験（小5）を指導させ、ドイツ人の子供たちも熱心に取り組んでいました。中1では順番に剣道の防具を着けて合同練習をしました。

養護学校（含む盲学校）との交流では車椅子体験、眼が不自由でも出来るゲームをしたり、親善サッカー試合なども毎年2回ずつ行いました。日本側は小5でしたが、ドイツ校は年齢も様々で中・高校生レベルもかなり入っており、結構白熱したドキドキする試合展開になりました。こうした自然な形での交流を通して、身障者への共感、理解が深まったと思います。

ある時には、全盲の裁判官にお越しいただいて自分の歩んできた道とか、盲導犬との共同生活などについて子供たちに興味深い話をさせていただいたのも忘れえない思い出です。

ドイツの子供たちは幼い頃から年中行事に関係するキリスト教の祝祭日を大変楽しみにしながら育ちます。待降節（アドベント）にはクリスマスの飾りつけを思い思い工夫しながら作り上げます。午後3時半頃には暮れてゆく暗く寒い季節を明るく過ごそうとするドイツ人の知恵が町中のイルミネーションや各家庭の窓辺に置かれ、木で出来たクリスマス飾りにつけられた明かりに感じられ、それを見ていると暖かい気持ちになります。

各地の特色溢れるクリスマスマーケットを訪ねるのは子供たちやその家族にとって大きな楽しみです。

ご公現の祝日には子供たちが3人の博士（カスパール、メルヒオール、バルタザール）に扮して近所の各家庭を練り歩きお菓子を貰います。特に老人たちは子供たち（中には親に連れられた幼児も）が次々と訪ねてくるのを心待ちに飴やチョコレートを沢山用意して、玄関のチャイムが鳴るのを待っています。

また大人も子供も扮装して練り歩く、カーニバル（謝肉祭）のお祭りが終わって、四旬節になるとイースターエッグの絵付が盛んに行われ、あちこちで作品が展示され、美しいイースターエッグのマーケットが開かれます。

美術館や城に行くと素晴らしい絵画（注：キリスト教の知識が無いと、中々理解が難しいモチーフが多く、日本の子供たちには可哀想ですが）の前で、大人が子供達に熱心に説明している場面を多く見かけます。このようにドイツの子供たちは幼いときから家庭でも、学校（宗教、美術の時間など）でも身近な大人から聖書の内容を教わりながらキリスト教的価値観を育てているように思います。ドイツの小学校ではまず発表能力、高学年ではディベート能力を身に付けさせようと力を入れています。教室では話し合いが中心になるため、先生と子供たちが輪になって座っていることが多いです。（1クラスは20-25名位）。

それぞれの国や文化の違いにより教育のやり方は異なりますが、益々グローバル化の進む世界に生きてゆく子供たちが自ら考え、自立できるよう、そして社会に貢献できる平和で幸せな人生を歩めるよう導いていく大人たちの熱意をひしひしと感じました。



<新しい本が届きました>

『祈りへの旅立ち マザー・テレサに導かれて』 片柳弘史著

これから始まるのは、マザー・テレサに導かれながら、イエス・キリストが住んでおられるという心のいちばん奥深い場所を目指して進んでゆく心の旅です。

『ゆるしの道 ルワンダ虐殺から射してくる、ひとすじの光』

イマキュレー・イリバギザ他

小さなトイレに身を隠して百日間。ルワンダの大虐殺をひとりの若い女性が奇跡的に生き延びた。家族や友人を失い、絶望の淵で見つけた生きる意味とは？

その他：

『ミサの前に読む・聖人伝』

『ユスト高山右近』

『出会と回心・神に還る』



宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

私たち、キリスト者に与えられている宝は、神のみことばである聖書です。
黙想の家では、毎月みことばを深く味わう集いを行っています。
宝は大事にしたいですね。

■ 日帰り黙想会

5月22日(木) 10:00～15:30 指導：山内十束神父

5月23日(金) 10:00～15:30 指導：山内十束神父

■ 一泊黙想会

5月24日(土) 17:00～25日(日)15:30 指導：山内十束神父

※ 各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで TEL. 0797-84-3111



～生きるということを考える～

黙想の家の新しいプログラムとして、「生きるということを考える」が始まります。
このプログラムは黙想をより豊かにするために、私たちが生きること、生きていることを
様々な視点から見つめていこうというものです。

第一回として『コミュニケーションを深めるために 一なぜだめなのか、どうすればいい
のかー』について、共に学び、考えていきたいと思えます。私たちは、家族、友人、職
場、教会等、様々な場では実際にどうすればいいのだろうか？私たちの生きていることを
真剣に見つめていきたいと思えます。

講師として**金香百合先生** <HEALホリスティック教育実践研究所>
(<http://homepage3.nifty.com/kimrin/index.html>)

をお招きします。理屈だけでなく、実際にコミュニケーションを深めるために、この私は
何をしたらいいのか？大阪YWCAで長く活動された金先生と共に、「コミュニケーション
を深める」ということ、「生きるということ」を考えてみませんか。

日 時： 5月10日(土)、24日(土) 10:00～15:00 (2回シリーズ)
参加費： 各回 3,500円 (昼食代含む)
申し込み： 宝塚黙想の家 電話：0797-84-3111

参加が多く見込まれています。満員の場合はお断りすることになってしまいますので、
ご希望の方は早めにお申し込みください。

編集後記

主のご復活、おめでとうございます。
これまで、ご復活祭前後に発行する「からしだね」の表紙は、カラーでお届けしてき
ましたが、今年から経費削減のため、白黒印刷となっております。カラー版は、池田
教会のホームページでお楽しみください。
さて、私の自転車は、最近、坂道で立ちこぎすると、ガクンとペダルが空回りするよ
うになりました。いつもの自転車屋さんに見てもらおうと、新しいのを買った方が良い
とカタログを手渡される始末。セカンドオピニオンのつもりで、別の自転車屋さん
行くと、2か所の部品を交換したら、まだ乗れるとの事。修理には、安い自転車が1
台買える程かかりましたが、雪の日以外は台風の日も一緒に行動する愛用の自転車が
復活したのは、私にとってのちょっとした喜びでした。(小さなみい)



染野治雄神父様 どももありがとうございました
(4月20日 復活の主日)

宗像の黙想の家でも、お元気で活躍ください

